

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.7

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

出穂期は早まる！高温対策と斑点米カメムシ防除を徹底！

1 気象経過と生育状況

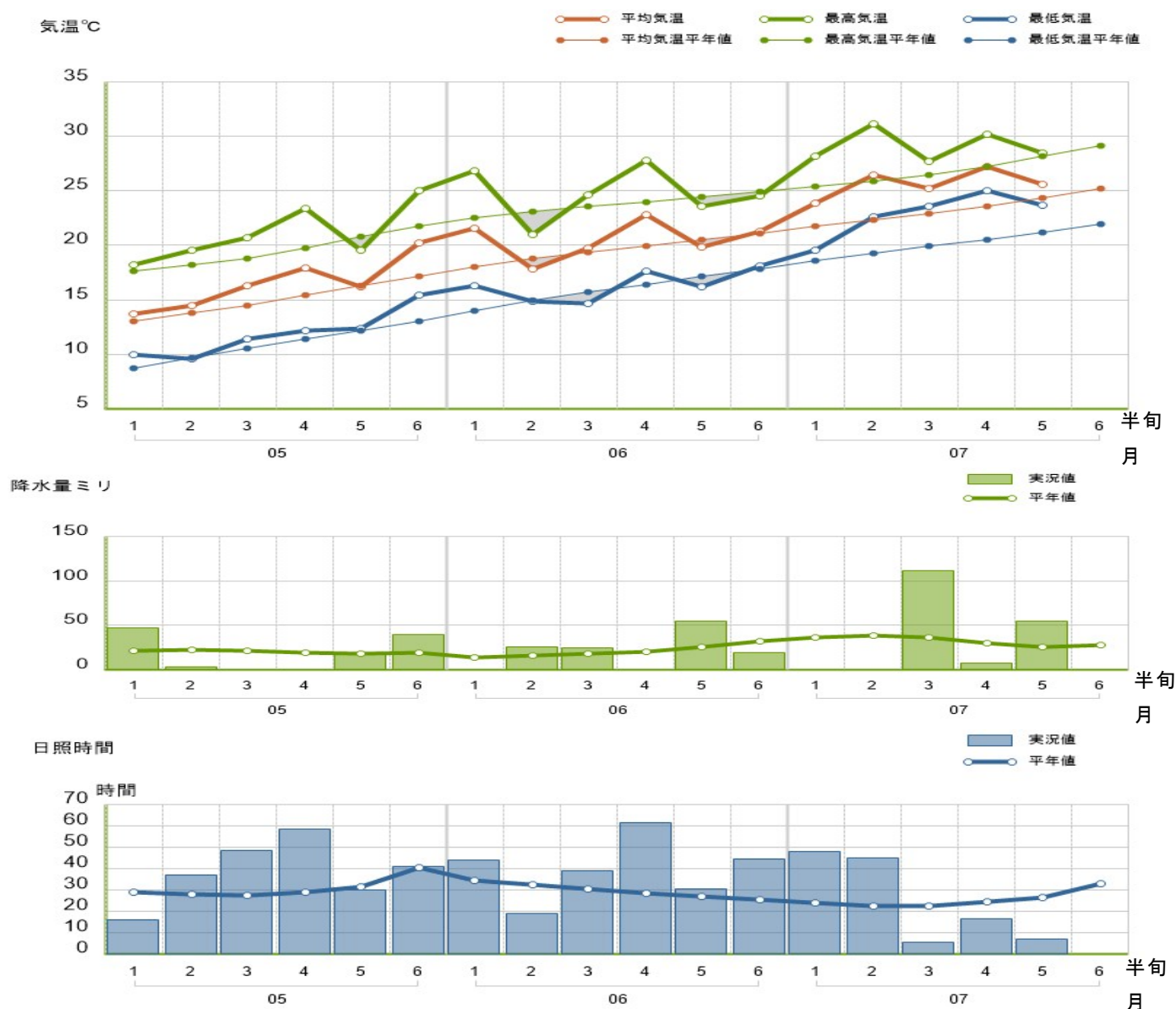


図1 気象経過と平年値 (アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用)

〈概況〉

7月24日の定点調査結果(あきたこまち)は、草丈は84.2cm(平年比104%)と長く、茎数は481本/㎡(平年比108%)と多く、葉数は12.9葉(平年差+0.2葉)とやや多く、葉色(SPAD)は38.0(平年比99%)とやや淡い状況でした。

全ての調査ほ場で減数分裂期を過ぎており、本年の出穂期は早まると予想されます。出穂後は水を多く必要とする時期であるため、用水の確保に努めてください。

表1 水稻定点調査結果(7月24日実施)

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
草丈	84.2cm	104%	97%
茎数	481本/㎡	108%	110%
葉数	12.9葉	+0.2葉	-0.3葉
葉色(SPAD)	38.0	99%	111%

※ 管内定点ほ場10地点(あきたこまち)の平均値

2 出穂期を正確に把握しましょう

本年の出穂期は平年より「7～3日程度」早まる見込みです(あきたこまち、7/28 時点の予測より)移植日や生育状況によりほ場ごとに前後しますので、ほ場をよく確認して正確な出穂期(ほ場全体の茎のうち 40～50%が出穂した日)を正確に把握し、適期管理・防除を徹底してください。

表2 アメダスデータを用いた「あきたこまち」の出穂期予測 ※出穂期:ほ場全体の茎のうち 4～5 割出穂。

地点 田植え日	秋田			男鹿			五城目			大潟			岩見三内			大正寺		
	予測日	平年差		予測日	平年差		予測日	平年差		予測日	平年差		予測日	平年差		予測日	平年差	
5月15日	7月25日	早7日	✓	8月1日	早5日	✓	7月29日	早6日	✓	7月30日	早6日	✓	7月31日	早5日	✓	7月31日	早6日	✓
5月20日	7月29日	早5日	✓	8月4日	早4日	✓	8月1日	早5日	✓	8月2日	早5日	✓	8月3日	早4日	✓	8月3日	早5日	✓
5月25日	7月31日	早6日	✓	8月6日	早5日	✓	8月3日	早6日	✓	8月4日	早6日	✓	8月5日	早5日	✓	8月5日	早5日	✓
5月30日	8月4日	早5日	✓	8月9日	早4日	✓	8月7日	早4日	✓	8月8日	早4日	✓	8月9日	早3日	✓	8月9日	早4日	✓

注)あきたこまち中苗移植、田植え翌日から7月 27 日まで各アメダス地点の平均気温実測値、それ以降は平年値を用いて推定。今後の天候によって予測日は前後する。平年差は田植えからの平均気温が平年値で経過した場合の出穂期予測との差。

3 今後の水管理(高温対策・大雨対策)

○高温対策について

- ① 7月23日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温はかなり高い(特に8/1～8/7はかなり高い)と見込まれます。
高温条件下では、白未熟粒の発生が多くなることから、次の水管理を徹底しましょう。
- ② 出穂の時期は水を多く必要とするため、出穂後10日間では湛水状態(水深5～6cm程度)を保ちます。その後は水深2～3cmで間断かん水を基本とします。
- ③ 最高気温が30℃以上となる場合は、用水の確保が可能であれば、かけ流しを行います。
かけ流しかん水が困難な場合は、落水期間の短い間断かん水や飽水管理(田面に水が染みる程度のかん水)を実施し、水分補給と地温の低下に務めてください。
- ④ 落水時期は、出穂後30日以降としてください。
- ⑤ フェーン現象等で乾燥した風の強い日は、白穂の発生や籾の登熟停止、枝梗の活力低下を防ぐため、台風が通過してフェーン現象が収束するまでは湛水管理を行います。

○大雨対策について

- ・ 冠水・浸水した場合に速やかに排水されるよう、事前に排水溝や排水路の点検を行ってください。
- ・ 大雨により水路が増水している場合は、危険ですので絶対に近づかないでください。

4 病虫害防除対策を徹底しましょう

※本年は出穂期が平年より早まるほ場が多くなると見込まれるため、防除時期を逸しないように注意します。

※令和8年度 農作物病虫害発生予察情報 発生予報 第4号(8月予報)より

(1) いもち病(穂いもち) (発生時期: 早い、発生量: やや少ない)

穂いもちが発生後の防除では手遅れになるため、次の防除対策を適期に行います。

- ① 葉いもちの発生が認められるほ場では、直ちにコラトップ剤(コラトップ1キロ粒剤12、コラトップ豆つぶ、コラトップ粒剤5)、ゴウケツ粒剤／サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブルまたはビーム剤と穂揃期にトライフロアブルまたはラブサ

イド剤を茎葉散布します。

- ② 葉いもちが多発しているほ場では、上記に加え必要に応じて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行います。また、用水が確保できず湛水できない場合は、茎葉散布剤を選択して防除してください。
- ③ 本田での総使用回数は、テブフロキン剤(トライ剤)は2回以内、フサライド剤(ラブサイド剤、ブラシン剤等)は3回以内、トリシクラゾール剤(ビーム剤、ノンブラス剤等)は3回以内となっているため注意しましょう。

(2) 紋枯病 (発生時期: 一、発生量: やや多い)

- ① 穂ばらみ期～出穂期の発病株率が 15%を超える場合は、出穂直前～穂揃期にバシタック剤、バリダシン剤、モンカット剤、モンセレン剤のいずれかを株元に到達するように丁寧に散布します。出穂直前の防除が効果的ですが、多発が予想される場合は出穂以降にも散布します。

(3) 斑点米カメムシ類 (発生時期: 早い、発生量: 多い)

- ① 令和8年7月 28 日に「令和8年度 農作物病虫害予察情報 注意報第1号」が発表されました。**斑点米カメムシ類が多いことから、本年の薬剤防除は2回散布を基本**とします。
- ② 本年は、**出穂期(ほ場全体の茎のうち 40～50%が出穂する日)が早まると**予想されることから、**ほ場毎の出穂期を正確に把握し、適期防除に努めましょう。**
- ③ 1回目防除は、出穂期 10 日後頃にアルバリン剤またはスタークル剤を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布します。
- ④ 1回目防除の散布当日から 7 日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去します。
- ⑤ 2回目防除は、出穂期 10 日後頃の薬剤防除に加え、同 24 日後頃にもエクシード剤またはキラップ剤を茎葉散布します。ただし、セジロウンカが多発しているほ場では可能な限りエクシード剤を選択します。

表3 斑点米カメムシ類の本田防除と草刈り時期

	6月		7月		8月			9月		
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
本田防除					1回目防除 ↔ 出穂期10日後頃		2回目防除※ ↔ 出穂期24日後頃			
農道・畦畔	↔					↔ 草刈り		↔		
法面・休耕田	↔ 草刈りの徹底			草刈り禁止				↔ 草刈りの徹底		
出穂15～10日前までに数回行う。水田内のイネ科、カヤツリグサ科雑草の穂はアカスジカスミカメの発生を助長するため除草対策を徹底する。				1回目の茎葉散布剤の散布7日後までに草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。				稲の収穫2週間前以降から草刈りを実施する。		

注)出穂したホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場やイネ科雑草が主体の牧草地・休耕田等に隣接するほ場、発生予察情報に基づき多発が予想される場合は出穂期 10 日後頃と同 24 日後頃の 2 回防除を必ず実施する。

※殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂等への危害防止に努めましょう。

※巣箱の設置場所が近接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるので、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯（午前 8 時～正午）を避け、できるだけ早朝又は夕方に農薬散布しましょう。

6 熱中症対策

今後、気温がかなり高く推移する予報であることから、熱中症対策を徹底してください。

① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう。

・特に70歳以上の方は、喉の渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう。

② 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう。

③ 熱中症予防グッズを活用しましょう。

・屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう。

④ 単独作業を避けましょう。

・作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう。

◇次号は8月 20 日頃の予定です。